2025 12.15 vol.1131

JAグループ

JA全農ウィークリー

JA ZEN-NOH WEEKLY

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから
https://www.zennoh-weekly.jp/

2面
カナダのカリ輸出会社社長が全農を表敬訪問
（耕種資材部）

6-7面
TAC・出向く活動 パワーアップ大会2025を開催
（耕種総合対策部）

配送先変更（住所・宛名）、
配布部数変更はこちら
https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK

全農 ZEN-NOH
食と農を未来へつなぐ。

News!

第16回全日本ホルスタイン共進会開催

10年ぶり全国から酪農家・乳牛が集う

畜産生産部

第16回全日本ホルスタイン共進会（ホル全共）が10月25、26日、北海道胆振管内安平町で開催されました。全国各地の優れた乳牛400頭が集結し、体型の美しさを競いました。

ホル全共は、乳牛が健康で長く搾乳するのに必要な体型の改良度合いを比較展示するために、各都道府県を代表する乳牛を一堂に集めて開催されます。第16回大会は、前回15回大会が新型コロナウイルスのまん延で中止となったため、10年ぶりの開催となりました。

ホル全共は「酪農の祭典」として、全国から多くの酪農家や酪農関係者が集まり、酪農の技術研さんのための資材展示や親睦交流の場としても活用されています。

当日は全農経営管理委員会の折原敬一会長、桑田義文代表理事理事長、由井琢也常務理事が来賓として参加し、品評会や酪農資材展を視察しました。

ホル全共の主催である一般社団法人 日本ホルスタイン登録協会では、品評会結果・出展企業などをHP（QRコード）で公開しています。

ホルスタイン共進会に出陳された牛

現地を視察した折原会長㊨と桑田理事長㊧

ホル全共HPはこちらから

News!

カナダのカリ輸出会社社長が全農を表敬訪問

今後も協力関係の強化を確認

耕種資材部

全農がカリ肥料を購入しているカナダのカリ輸出会社・カンポテックス社のゴードン社長らが11月19日、JAビルを訪れ桑田義文代表理事理事長らと懇談しました。

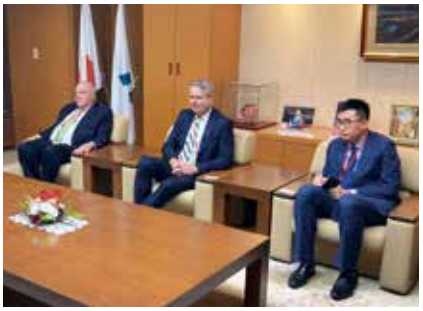
カンポテックス社はカナダを拠点とする世界最大のカリ輸出業者で、カナダで生産されたカリを40か国以上へ、年間1300万㌧以上輸出しています。

全農は1962年、日本勢で初めてカナダ産カリを輸入し、現在に至るまで同社を通じて累計930万㌧以上を輸入してきました。肥料需給がひっ迫する場面においても、同社協力のもと、安定したカリ肥料の調達が継続できています。

懇談では、桑田理事長から長期にわたる協力への感謝とともに継続した安定供給を依頼しました。ゴードン社長からは「世界的に貿易の不確実性が高まる中、全農との安定した取引をぜひ継続したい。そのための安定供給への協力は惜しまない」との力強い言葉が述べられました。

全農は肥料原料の安定確保のため、海外取引先とのさらなる関係強化に取り組んでいきます。

（右から）桑田理事長、ゴードン社長、マット副社長、日比健常務理事



懇談の様子

News!

「全農フェスタ×eat AKITAプロジェクト」開催

秋田県産農畜産物を食べて生産者を応援

秋田県本部

秋田県本部は11月22日、今年で4回目となる秋田県農業応援イベント「全農フェスタ2025」×「eat AKITAプロジェクト」を秋田市で開催しました。

今年は、JAグループ秋田と秋田県本部が取り組んでいる「eat AKITAプロジェクト」をテーマに、秋田県農業の理解醸成と秋田県産の農畜産物を意識して選び食べることで、県内の生産者への応援につなげてもらうことを目的に開催しました。

会場では、お米作りの工程を遊びながら学べる「米づくり体験シミュレーション」WEBゲームを紹介し、ゲームの中で苗を育てるところから収穫までを体験してもらいました。

会場からの大声援の中、「お米の重量挙げ選手権」で奮闘する参加者

また「蜜飴林檎」とコラボした秋田県産リンゴで作った「りんご飴（あめ）」の販売、秋田県JA青年部協議会が制限時間30秒で行う「長ネギ詰め放題」や「あきたこまち」「りんごジュース」などを販売し、午前中から多くの家族連れでにぎわいました。

来場者参加型のステージイベントでは、小学生を対象とした「牛乳パック積み上げバトル」などを行いました。毎年大盛況の「お米の重量挙げ選手権」では、今年から女性の部を設け実施。会場からは参加者に「頑張れ！」などの声援が送られ、終始盛り上がりました。

ステージイベントの優勝者には「JAタウンおらほの逸品館」の商品を選べるギフト券が贈られました

News!

沖縄県糸満市で「全農東北フェア」

2000キロ離れた沖縄で旬の東北産果実 リンゴ・洋梨を販売

耕種総合対策部

全農東北プロジェクトは11月22、23日の2日間、JAおきなわが運営するファーマーズマーケット「うまんちゅ市場」の周年祭に併せて「全農東北フェア」を開催し、今が旬の東北産果実を販売しPRしました。

今年で開場23年を迎える「うまんちゅ市場」での販売・PRは、5年目となります。

今年の周年祭は、3連休ということもあり地元住民のほか、国内外の観光客など多くの来場者でにぎわいました。

今回、プロジェクトでは青森、岩手、秋田県産のリンゴ3品種、山形県産の洋梨「ラ・フランス」を出品し、各県メンバーが来場者に自県産果実のおいしさをPRしながら販売しました。試食も実施し、来場者からは「ラ・フランスは果肉が柔らかく、とても甘い」「スーパーのリンゴよりも新鮮でおいしい」との声が聞かれ好評でした。

東北の農産物をPRした会場

同プロジェクトの他にも、岩手県産リンゴと和歌山県産ミカンの詰め放題イベントも実施。店内は大盛況で、周年祭は大いに盛り上がりました。

次回は来年2月ごろに宮城県産イチゴを販売する予定で、今後も継続的に沖縄での東北産品の販売・PRを行っていきます。

News!

こども食堂へ精米・パックご飯を寄贈

おいしいご飯を次世代担う子どもたちへ

米穀部

全農は「認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ」を通じて、全農グループの精米・パックご飯をこども食堂に寄贈しました。

全農は、東京・大手町のJAビルで11月21日に寄贈式を行い、金森正幸常務理事が、むすびえの遠藤典子理事に目録を贈りました。むすびえを通じて関東（埼玉、千葉、東京、神奈川）、関西（大阪、兵庫）各エリアのこども食堂へ精米5キロ6000袋、パックご飯7万2000食が提供されます。

寄贈式には、寄贈する精米・パックご飯を製造する全農パールライス㈱の山本貞郎代表取締役社長とJA全農ラドファ㈱の桑原真一郎専務も出席。金森常務が「次世代を担う子どもたちに、将来にわたりお米をたくさんおいしく食べてもらうことで健やかな成長をサポートしたい」と述べ、むすびえからは今回の取り組みに対する感謝状をいただきました。

全農は、引き続き国産米をたくさん食べてもらうことで、未来を担う子どもの成長を応援します。

（左から）全農パールライス・山本社長、全農・金森常務、むすびえ・遠藤理事、JA全農ラドファ・桑原専務

News!

報道関係者を招き圃場視察と意見交換会

生産者が都市農業への思い伝える

神奈川県本部

神奈川県本部は11月26日、JA神奈川県中央会と連携して、報道機関の記者などを対象に初の「報道関係者懇談会」を開催しました。テーマは「知ってほしい！ 都市農業の魅力と現場の努力」。報道機関など8社8人の記者を含めた約40人が参加しました。

本懇談会は県内農業の現状や課題を報道関係者に伝え、報道を通じて県民へ農業・JAへの理解を深めることを目的に開催しました。

当日は藤沢市の亀井尋仁さんの圃場（ほじょう）を訪ねました。亀井さんはトマトやキャベツなど年間約50品目を栽培しています。都市で農業を続けるための工夫や、生産コスト高騰による厳しい現状を説明し、「消費者には積極的に地元産を買ってもらい、取れたて野菜のおいしさや価値を知ってほしい」と呼びかけました。

視察後はJAさがみ本店で意見交換会を実施。県中央会と神奈川県本部が、JAグループ神奈川の取り組みや農畜産物の適正価格形成に向けた取り組みについて説明しました。

新規就農者への支援策や、農業に安心して取り組める環境づくりについて意見を交わし、参加した記者は「農業への関心を高め、消費者に情報を発信していきたい」と話しました。

報道陣の取材に応じる亀井さん

JAズームイン

「いわき長ネギ選果調製施設」

秋冬ネギ産地維持へ本格稼働

JA福島さくら（福島県）

概要	2025年2月28日現在
正組合員数	3万8443人
准組合員数	3万2822人
職員数	1132人
販売品取扱高	150億6千万円
購買品取扱高	77億4千万円
貯金残高	6434億6千万円
長期共済保有高	1兆5517億6千万円
主な農産物	ピーマン、トマト、キュウリ、梨、インゲン、ネギ、イチゴ

稼働したいわき長ネギ選果調製施設

JA福島さくらは、福島県の中央部から東部・南東部にかけての広域に位置し、「JA福島さくら園芸ギガ団地」の推進を通じて、地区ごとに園芸振興品目の確立を進めています。

郡山地区ではキュウリ、たむら地区ではピーマン、いわき地区では長ネギ、ふたば地区ではトマトを重点品目として取り組んでいます。

持続可能なネギ産地確立を目指して

いわき地区では2025年11月21日、生産者の出荷調製作業の軽減と持続可能なネギ産地の確立を目指し、「いわき長ネギ選果調製施設」の操業開始式を開催しました。同施設は今年2月に完成し、画像選別機（1時間最大4000本）や根葉切り・皮むき機などを備えており、秋冬ネギの出荷期に合わせて本格稼働を迎えました。

施設の内観

安定的な供給によるブランドの強化

いわき地区では、ネギの販売量の約9割を秋冬ネギが占め、国の指定産地にも登録されています。1998年ごろには年間900トンの出荷量を誇りましたが、生産者の高齢化や担い手不足により耕作面積が減少し、指定産地の維持が課題となっていました。

同施設では、生産工程の中で最も労力を要する選別・調製作業（労働時間の6割強）を施設が担うことで、生産者の負担軽減と産地維持につなげることを目的としています。

お披露目会で施設の説明を受ける部会員たち

操業開始式には、いわき市、県いわき農林事務所、市場関係者、同JA役職員など約50人が出席。施設の概況報告や販売宣言の後、志賀博之代表理事組合長ら関係者がテープカットを行い、操業を開始しました。

施設の操業を開始

志賀組合長は「施設の活用を通じ、県内外へ安定的にいわき長ネギを供給し、ブランド力の強化を図っていきたい。そのためにも、生産者の皆さまに積極的に施設を利用いただけるよう推進していく」とあいさつしました。

操業開始式でテープカットをする志賀組合長（左から4人目）ら

ップ大会2025を開催

動で担い手支援をさらに強化

1

全農は11月20、21日、横浜市の新横浜プリンスホテルで「TAC・出向く活動パワーアップ大会2025」を開催しました。全国から地域農業の担い手に出向くJA担当者（TAC）やTAC管理者、JA役員、関係機関など約350人が参加した他、各県に設置した県域サテライト会場からも多くの方が視聴しました。

【耕種総合対策部】

大会は、「地域農業の課題解決に向けた出向く活動の実践」「JAグループの総合力を発揮した担い手支援」「持続可能な農業の実現に向けた生産基盤の確立」をテーマに、活動表彰や取り組み事例の発表、分科会などを行いました。

本年度は、TAC活動の強化策の一環として、米の安定供給を支える取り組みを進めています。その中で、現場で工夫を凝らした優良事例を広く共有し、全国の活動の底上げを図ることを目的に、新たに「JA部門 米集荷特別表彰」を設けました。

また、昨年度に引き続き、全国を東日本地区（北海道、東北、関東甲信越）、西日本地区（北陸、東海、近畿）、中四国九州地区（中国、四国、九州、沖縄）の三つに分け、それぞれの地区で審査委員会を実施。各地区の代表に選出されたJA・TACによる最終プレゼン審査を大会内で行いました。

最終プレゼン審査を経て、最高位にあたる全農会長賞に選出されたJA秋田なまはげ（JA部門）、JAわかやま・土谷賢太郎さん（TAC部門）をはじめとして、JA部門3JA、TAC部門9人を表彰しました。また、全国表彰を3回以上受賞し、出向く活動を高いレベルで継続しているJAレーク滋賀、JA小松市、JA北びわこ、JA筑前あさくらをTACトップランナーズJAとして表彰しました。さらに、米穀部署と連携した米の集荷に成果を上げたJAあさひかわ、JA小松市、JA北びわこをJA部門　米集荷特別表彰として表彰しました。

基調講演では、元プロ野球選手で、現在は野球解説者として活躍されている里崎智也さんが、スポーツの現場で培われた経験をもとにJAの組織活動にも通じるチーム力について講演しました。

分科会では「相続・事業承継相談強化」「スマート農業」「TACミーティング」「米集荷取組み強化」「担い手営農サポートシステム活用」の五つのテーマについて熱心な議論が展開され、普段接し

TAC・出向く活動パワーア

「総合力」で挑む地域農業の未来 出向く活

1 受賞者らの集合写真
2 開会あいさつをする全農の折原敬一経営管理委員会会長
3 大会宣言を行うＪＡいわて中央の米田菜摘さん
4 基調講演をする里崎智也さん
5 出向く活動への想いを語る全農会長賞（JA部門）受賞のJA秋田なまはげ 佐々木崇代表理事専務
6 分科会で意見交換する参加者

ない他県・他ＪＡの参加者との交流の場となりました。

目まぐるしく情勢が変化するこの時代においても、全農はＪＡグループの総合力を結集し、出向く活動をさらに進化させることで、担い手と全国の仲間たちとともに、地域農業の未来を築き、食の安全・安心を守り続けるための取り組みを支援していきます。

TAC・出向く活動パワーアップ大会2025活動表彰　審査結果

【ＪＡ部門】

表彰区分	県名	農協名
全農会長賞	秋田県	秋田なまはげ農業協同組合
優秀賞	静岡県	ハイナン農業協同組合
	福岡県	筑前あさくら農業協同組合

【TAC部門】

表彰区分	県名	農協名	氏　名
全農会長賞	和歌山県	和歌山県農業協同組合	土谷 賢太郎 氏
優秀賞	福島県	ふくしま未来農業協同組合	蒔田 和也 氏
	熊本県	本渡五和農業協同組合	山下 清弥 氏
地区別優秀賞	岩手県	岩手中央農業協同組合	米田 菜摘 氏
	秋田県	秋田しんせい農業協同組合	佐々木 敬太 氏
	石川県	金沢市農業協同組合	山本 智広 氏
	滋賀県	レーク滋賀農業協同組合	中辻 秀章 氏
	島根県	島根県農業協同組合	原田 裕幸 氏
	愛媛県	越智今治農業協同組合	合田 光 氏

【TACトップランナーズJA】

県名	農協名
滋賀県	レーク滋賀農業協同組合
石川県	小松市農業協同組合
滋賀県	北びわこ農業協同組合
福岡県	筑前あさくら農業協同組合

【ＪＡ部門　米集荷特別表彰】

県名	農協名
北海道	あさひかわ農業協同組合
石川県	小松市農業協同組合
滋賀県	北びわこ農業協同組合

※小松市農業協同組合、北びわこ農業協同組合、筑前あさくら農業協同組合については、本年度の特別措置による受賞。

TAC・出向く活動パワーアップ大会2025 大会宣言

我々TACは、

一、担い手とともに、新たな技術と知恵で、持続可能な農業を創造します。

一、ＪＡグループの総合力を結集し、多様なニーズに応えます。

一、地域社会を守るため、「食」と「農」をつなぐ架け橋となります。

COUNTDOWN JAPAN
JA全農提供FMラジオ番組（TOKYO FM／JFN38局）毎週土曜日13：00～13：55
東京・半蔵門のアースギャラリースタジオより生放送！

ニッポンエール「和ミントのど飴」2品新発売！

全農と全国農協食品㈱はニッポンエール「和ミントのど飴（あめ）シャインマスカット味」「和ミントのど飴 マンゴー味」を開発しました。全国農協食品から12月15日より順次、全国の販売先などで発売します。　【営業開発部・全国農協食品】

ニッポンエール「和ミントのど飴」2品は、北海道産和ハッカのハッカ油を使用したのど飴です。国産果実の中でも人気の高い長野県産「シャインマスカット」のソースと、宮崎県産「マンゴー」のピューレをそれぞれ使用しています。和ハッカの爽やかな香りと国産果実の豊かな甘みをお楽しみください。

全農は、国産農畜産物の消費拡大や生産振興に向けて、今後も「ニッポンエール」の取り組みを全国の産地・品目に拡大していきます。

和ミントのど飴 シャインマスカット味

和ミントのど飴 マンゴー味

金沢市に50店舗目の「全農直営飲食店舗」

北陸初出店、地元食材を使ったメニュー提供

全農は、11月29日に直営飲食店舗「みのる食堂 金沢フォーラス店」を「金沢フォーラス」（石川県金沢市・JR金沢駅徒歩1分）に新規開業しました。　【フードマーケット事業部】

全農グループでは、国産農畜産物の消費拡大・PR強化や外食産業における国産農畜産物の利用拡大を促進するため、全国で49店舗を展開しています。

その50店舗目となる「みのる食堂 金沢フォーラス店」では、石川県産ブランド和牛「能登牛」やブランド豚「能登豚」をはじめ、JA直売所「ほがらか村」から届く旬の加賀野菜など、石川県産の農畜産物を羽釜で炊き上げたご飯とともに提供します。

能登牛と能登豚の自家製ハンバーグ定食
（税込み1859円）

金沢市にオープンした「みのる食堂」

開業を記念して、11月29日に食事を注文した先着500人に「能登牛わじま箸」をプレゼントしました。

JA全農の産地直送通販サイト

JAタウン ショップ紹介

近江の味彩

日本三大和牛の一つであり、400年以上の歴史を持つブランド牛「近江牛」をぜいたくに使用した生ハンバーグ。

東西の境目・関ケ原に店を構える近江牛一頭買い専門店「ダイニング天満」で、シェフが一つ一つ丁寧に手作りしています。

自宅でも店の味が再現できるよう、"おいしい焼き方のコツ"をまとめたレシピ付き。使いやすい 100グラム×8個入りのセットで、日常使いにも特別な食卓にもぴったりです。

近江牛の豊かな風味とほど良い歯応えが楽しめる、専門店ならではの味わいをお楽しみください。

【近江牛一頭買い専門店 ダイニング天満】
近江牛生ハンバーグ100グラム×8個セット（贈答用箱入り）
…3980円（税込み）

ご注文はこちらから

▶ JAタウンはこちらから https://www.ja-town.com
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

発行／全国農業協同組合連合会　2025年（令和7年）12月15日発行（毎週月曜日発行）
第3527号　編集・発行人／広報・調査部　澤田洋志
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル　TEL03（6271）8055

『JA全農トピックス』の公式Xはこちらから

私たち全農グループは、生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋になります。